

Newsletter

THE ACADEMY OF CLINICAL DENTISTRY

92

2024.1.31



第 42 回日本顎咬合学会学術大会・総会

プログラム紹介 / 参加登録のご案内

2023 年度 支部学術大会を終えて

支部委員長 総括 / 支部長, 副委員長 報告

2024 年度 支部学術大会

会員発表案内 / 2024 年度 各支部学術大会日程



かめるをたしかめる
特定非営利活動法人
日本顎咬合学会

第42回

日本顎咬合学会学術大会・総会

The Academy of Clinical Dentistry 42nd Academy Meeting

顎咬合学 **踏襲** から発展
学術と臨床の融合

大会長：貞光 謙一郎

会期：2024年6月8日(土)・9日(日)

会場：東京国際フォーラム



2024年6月8、9日、東京国際フォーラムにて第42回日本顎咬合学会学術大会・総会を開催いたします。テーマを「顎咬合学 踏襲から発展」としました。顎咬合系の学問であるナソロジー（Gnathology）は、1920年代にアメリカで提唱されて以来脈々と受け継がれ、現在に至るまで日常診療において、そのコンセプトが応用されています。今回の学術大会ではご高名な先生方に、踏襲してきたナソロジーを発展すべく、実践してきた臨床の結果をご講演いただきます。

海外特別招聘講師には Dr. Wael Att をお招きしました。IOS (Intra Oral Scanner) や顎運動、AI (人工知能) による診断からインプラントまで、ナソロジーを踏まえてのデジタルを活用した補綴治療について多くの最新情報を得ることができるプログラムとなっています。

メインプログラムでは、顎咬合学に関して、著名な先生方の様々な長期経過症例を通して、各ステージにおいてどのように考え現在に至るのかを学ぶことができます。各講演でインプラント・義歯・矯正と咬合との関連性についても学べるようになっていきます。また、顎咬合学のみならず、歯周病・インプラント・顎関節・デジタルデンティストリー・接着・審美・歯科材料など他学会を代表される先生方も多数登壇し、全方向から新たな学びを得られるまたとない機会になっています。

本年度は、web開催では成し得なかった会場参加型のパネルディスカッションを新設し、4つのカテゴリーで実施され、参加者には活発な議論を交わしていただきたいと考えております。テーブルクリニックではデモンストレーションを中心に開催します。

協賛プログラムでは新しい試みとして、「IOS展示・実機体験」を設置します。通常の展示会場とは別にIOSに直接触れ、体験できる企画となっています。

また、昨今の歯科大学在籍者の男女比で女性が多くなっている状況なども踏まえ、「女性歯科医師の活躍 | これからの女性歯科医師に」と題し、演者を女性歯科医師で構成したプログラムも設けています。

歯科衛生士向けのプログラムでは、歯周病についての総論から、咬合を理解する上で知っておくべき解剖学から診査・診断のために必要なレントゲンの読影、メンテナンスを円滑に行うためのコミュニケーションや糖尿病など全身に関わることについても学んでいただけます。

その他、参加されるコデンタルスタッフに向けての接客・接遇のプログラムも設けており、歯科医師のみならず、医院に勤務するスタッフにも、日常臨床への意識を高めてほしいと考えています。

今回のテーマにある「発展」ということから、デジタルに関するプログラムを意識的に増やしました。これは歯科医師・歯科技工士ともにこれからの流れを知っておくことで、流行に流されるのではなく、最新技術を上手く活用して臨床に役立てていただくためです。出席される方々にとって少しでも有意義な2日間になるように色々なプログラムをご用意致しましたので、近隣の歯科関係者の方もお誘いあわせの上、是非、ご参加ください！



特別講演：Wael Att

学術大会Checkpoint

- ☑ 長期症例から学ぶ顎咬合学
- ☑ 「咬合とインプラント」「咬合と義歯」「咬合と矯正」etc、他分野における咬合との関連性
- ☑ Wael Att：デジタルを活用したインプラント・補綴治療に関する最先端講演
- ☑ 『IOS展示・実機体験』実機体験していただけます。

その他にも、女性の活躍、国際デンタル情報、接客・接遇など多角的な内容が満載です。

事前参加登録のご案内

■事前参加登録方法

WEB登録のみ（※TEL・FAX・E-mail等でのお申込は受付けておりません）

URL：<https://nichigaku.site>

■事前参加登録期間

早割	2023年12月1日(金)～2024年3月31日(日)
通常	2024年4月1日(月)～5月16日(木)



学術大会特設ページ
QRコード

■お支払（決済）方法について

●事前参加登録：クレジット決済・コンビニ決済

※お支払期日は、登録期日と同日です。コンビニ決済をご希望の方は、お早めにご登録ください。

※支払期日を過ぎますと、その登録は無効となります。

●当日参加登録：現金のみ取扱い

■参加費

参加カテゴリー		【早割料金】	【通常料金】
会員	歯科医師	25,000円	27,000円
	歯科技工士・歯科衛生士・歯科助手・研究者等	11,000円	12,000円
非会員	歯科医師	31,900円(税込)	34,000円(税込)
	歯科技工士・歯科衛生士	15,400円(税込)	16,500円(税込)
	歯科助手・研究者等	12,100円(税込)	13,000円(税込)
準会員	臨床研修医・学生	無料	
非会員	臨床研修医・学生（※当日参加登録のみ）	無料	
賛助会員	賛助会員企業の皆様	5,000円	

メールマガジン 会員募集中

メールマガジンでは、「日本顎咬合学会学術大会・総会」、「咬合フォーラム」、「支部学術大会」や「指導医研修会」、「認定研修会」など、最新情報を配信しております。ぜひメールマガジンにご登録ください！

メルマガ登録方法

会員ページにログイン後、詳細情報確認よりご登録情報が確認できます。メールマガジン配信「可」となっているかご確認ください。未設定の場合は、「会員情報を変更する」よりご変更ください。

会員ログイン URL：https://ago-sys.net/PMMS_AGO/U01/U010101



会員ログイン
QRコード

2024年度支部学術大会

今年も全国で実開催を行います！

本年の支部学術大会も各支部にて実開催を行います。昨年4年ぶりに実開催しましたが、どの支部もたくさんの方にお集まりいただきました。久しぶりに先生方が顔を合わせて熱い議論を交わしたり、お互いに励まし合いながら切磋琢磨したり、肩を寄せ合って真摯に学ぶ姿はweb大会では見られない光景で、参加された皆さんにも多くの収穫があったのではないのでしょうか。

本年は各支部下記の日程で企画しております。所属の支部だけではなく、是非とも一つでも多くの会場へ足を運んでいただき、会場を盛り上げてください。

各支部では、会員発表の演者を募集しております。歯科技工士や歯科衛生士の方も奮ってご参加ください。また“若手歯科医師の登竜門”の演者選考も兼ねておりますので、45歳以下で下記の条件を満たす先生は選抜されるチャンスもあります。たくさん先生方のエントリーをお待ちしております。

第43回日本顎咬合学会学術大会 若手歯科医師の登竜門 選定規定

- ・2025年 第43回日本顎咬合学会学術大会・総会開催時点で45歳以下であること
- ・テーマは自由であるが、発表内容が全顎的な咬合再構成の要素を含むこと
- ・術後1年以上経過していること
- ・治療着手時の術者年齢が40歳未満であること

会員発表をしてみたいけれどどうしたら良いか分からない、何を準備したら良いかアドバイスが欲しい…などとお悩みの方は、お気軽に事務局までご相談ください。会員発表への積極的なご参加をお待ちしております。

お問い合わせ：nichigaku@ago.ac

2024年度各支部学術大会日程

内容の詳細はホームページやメールマガジン等で順次お知らせいたします。今しばらくお待ちください。

北海道支部学術大会

開催日：2024/10/20（日）
会場：北海道歯科医師会館（札幌）

東北支部学術大会

開催日：2024/11/24（日）
会場：ユートリー（青森・八戸）

関東甲信越支部学術大会

開催日：2024/10/27（日）
会場：コングレスクエア日本橋（日本橋）

中部支部学術大会

開催日：2024/11/17（日）
会場：企画中

近畿・中国・四国支部学術大会

開催日：2024/11/10（日）
会場：オービックホール（大阪）

九州・沖縄支部学術大会

開催日：2024/12/8（日）
会場：福岡歯科医師会館（福岡）

参加登録は8月下旬より支部の開催日順にスタートいたします。

タイムテーブルやプログラムなどもホームページでご確認ください。

2023 年度 支部学術大会を終えて

昨年 10 月から 12 月にかけて、全国 6 支部学術大会が 4 年ぶりに実開催された。

web での講演は手っ取り早く学ぶことができ、それなりに利点があるものの、自宅パジャマ姿であったり、2 倍速で見る、それではなかなか臨床につなげられるような、本腰を入れた勉強などできっこない。そもそも気合が違う。学術大会に参加してみれば必ず収穫があるし、思いがけない人と出会ったりする良さもあるし、なんといっても充実感があるものだ。皆さんに喜んでもらえるよう、支部長、副支部長を中心に、支部理事の先生方が、プログラムの立案から会場設定、参加費用、協賛企業の方々との打ち合わせなど、細部にわたり取り組んでくださっている。感謝、感謝。やはり、学会は実開催でなきゃならない。

今回、私は支部委員会代表として 4 支部の大会に参加させていただいた。頭に残った内容を少し紹介させていただく。佐々木啓一先生、水平的下顎位は様々な採得法があり悩みどころではあるが、下顎安静位を基準に求めるべきものであり、その手法を実演を交えて示していただいた。早くて軽いタッピングがポイントであるとのことだ。

長谷川嘉昭先生、とある患者の口腔内写真を提示され、4 番セラミック（穴の開いた）、5 番ジルコニア、6 番合金合金のクラウン（摩耗している）、硬さの全く違う材料が並んでいる、このような口の患者さんがこれから多くなってくると、咬合管理をどう行っていくべきだろうか？ と警鐘をならされた。また、再生療法にて新しい材料を使うにあたり「一番重要なことは有効性ではなく、安全性である」。私も以前に「新材料が出てきたとき、ある国では安全性が確保されてはじめて使われるのに対し、日本では危険じゃないから使われる」とどこかで読んだ。深く考えてみる必要がある。

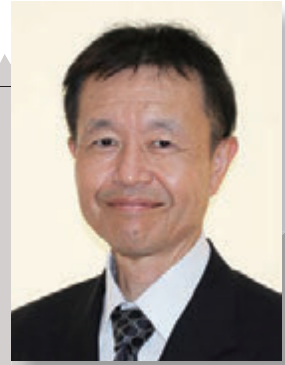
中村順三先生、身体中から湯気が出るほどホットな先生だ。総義歯臨床を提示され「頭でわかったってダメ、実践しなきゃ意味がないですよ！」後半は人間学、「成人には 2 つの意味がある。一つ目は成人、これは努力なしで 20 歳になれば誰でもなれる、もう一つは人と成る、立派な人間に成ること、これには努力がいるんです！！ そのためには大人の教養を讀書により身に着け、修身、徳を積むこと・・・」マイクの音が割れるくらいの大音声、熱く熱く語られた。この迫力は web では伝わりようがない！ グーっとこみ上げるものがある。実開催は演者の呼吸と一つになれる。中村先生の話は、一生に一度は聞いておいたほうが良い。やっぱり、実開催は素晴らしい。

とはいえ、課題もある。20 歳代、30 歳代の若い世代の参加者数が少なかったこと、これからの日顎にとって若い世代は欠かせない存在であるし、学会自体を盛り上げてもらわなければならない。会場に来てもらえれば、魂のこもった講演を拝聴できるだけでなく、周りに同年代の見知らぬ参加者の顔があることもいい。難しい話をわかった顔をしてうなずいている姿を見て自分の勉強不足を思い知り、時には同年代の先生のすごい発表を見て、刺激をうける。疑問が出てきたら、勇気を出して質問に立つ。「こんな質問したら、笑われないかなあ？」「かんでしまったらどうしよう」など、心拍数も上がってくるだろう。が、それを乗り越えることが成長なのだ。演者と一体になるためにはそれを乗り越えなければならない。こんなドキドキ感もまたいいものだ。

最後に「歯科の神髄は咬合にあり」この学会の創設者保母須弥也先生のお言葉だ。咬合治療をできるのは、歯医者だけ。咬合をしっかりと診ることは、顎関節症治療やフルマウス治療などの大きなケースの時のみに重要視されるものではない。1 本のカリエスやペリオ、時には知覚過敏であっても咬合の不調和が原因のこともよくあること、ましてや患者と一生付き合うつもりなら、絶対に無視できないものなのだ。

各支部において咬み合わせベーシックセミナーが 1 年に一度、10 人限定で開催されている。咬合を基礎から勉強でき、実践を重んじた素晴らしいセミナーだ。ホームページで確認していただき、ぜひ参加していただきたい。

大いに勉強をして一緒に楽しい歯科人生を歩もうではありませんか！



支部委員長
春藤 憲男



佐々木啓一 先生



長谷川嘉昭 先生



中村順三 先生

北海道支部

テーマ：噛めるが普通になる！

開催日：2023/10/29

会場：北海道歯科医師会館

今回の支部学術大会は、3年振りの実開催という事で三位一体を意識できる様な会員発表を目指しました。歯科医師会員発表3題、歯科技工士会員発表3題、歯科衛生士会員発表2題のエントリーをいただきました。

大会テーマ、プログラム内容は支部長、副支部長で外骨格を設定しました。開業医の集まりですので、基本的にはZOOMによるオンラインでコロナ禍前の実開催当時の支部役員、担当の役割を確認しました。外骨格をベースに肉付けをしつつ、数年振りということで段取りなどを忘れていたことも多く苦労しました。特に苦労した点として、以前は認定医教育研修会が支部学術大会前日に開催されており、事前の人数を把握できて懇親会への誘導も比較的スムーズに出来ていましたが、参加人数が少なく困惑しました。協賛企業へのブース展示のご依頼と懇親会への案内には大変に苦労しました。

久しぶりの実開催で北海道の土地柄、地方から参加の会員のためにもなるべく早くに終了するように配慮したことは良かったのですが、時間に余裕がなくタイト過ぎた感じもありました。

今大会は、全体を通して、オール北海道の演者ということでもとて纏まりがあったように感じました。

広大な北海道では移動に時間がかかります。web会議システムにより会議は頻繁に行うことができますが、とにかく、実働できる支部理事の数がどうしても少ないのには苦労します。このような状況の中、運営に尽力いただきました先生方のおかげで今大会を成功裏に終えることができました。

特別講演者を道外からの招致、ランチョンセミナーの開催、歯科衛生士、歯科技工士のセミナーなどコロナ禍前のように充実させていきたいと考えております。来年の北海道支部学術大会、是非、ご参加ください！！

北海道支部長 谷口 昭博



特別依頼講演

中村順三 / 山口泰彦

会員発表

葛西恵理 / 金丸 琉 / 長嶋周一 / 石尾知亮
杉山響希 / 吉澤琢真 / 岡 宏樹 / 玉川博貴

敬称略



中村順三 先生



支部長：谷口昭博

令和五年度 日本顎咬合学会北海道支部学術大会
テーマ「噛めるが普通になる！」
特別講演 I
「安心出来る総義歯作りと人間学について」
特別講演 II
「顎関節、咀嚼筋の異常や非生理的顎運動を考慮した咬合の捉え方」
札幌市国定 中村順三 先生
山口泰彦 先生

東北支部

テーマ：実践！一口腔一単位の歯科治療

～咬合再構成の基礎と多種多様なハイジーンワークの実践～

開催日：2023/10/22

会場：良陵会館

東北支部学術大会は10月22日（日）、宮城県良陵会館において、「実践！一口腔一単位の歯科治療 ～咬合再構成の基礎と多種多様なハイジーンワークの実践～」をテーマに開催しました。今年は実に4年振りとなる実開催であったため、どれだけ人が集まるか、なかなか予想しにくい状況でしたが、実行委員長の永田一樹先生（山形県開業）の旗振りの下、東北支部理事メンバーを中心とした実行委員一同、東北支部全体で盛り上がる支部学術大会となるよう、懸命に準備に励みました。その甲斐あって、当日は東北各地から146名が参加し、非常に活気のある大会となりました。

午前中は会員発表が6演題あり、東北6県全てから演者が立ち、歯科医師4名、歯科技工士1名、歯科衛生士1名と多岐にわたる発表でした。質疑応答でも様々な議論が交わされ、オンラインによるモニターを通してでは決して味わうことのできない白熱したものとなりました。

午後は2会場に分けてそれぞれ特別講演を行いました。歯科医師・歯科技工士向けには、佐々木啓一先生（宮城大学学長）が登壇し、「咬合：What？How？」をテーマに咬合再構成の基礎から実際の手技まで幅広い内容の講演が行われました。歯科衛生士向けには、東北各地で活躍する6名の歯科衛生士、千葉加南子先生（宮城県勤務）、赤塚裕美先生（山形県勤務）、片倉玲奈先生（宮城県勤務）、山泉弥智世先生（山形県勤務）、後藤由香先生（岩手県勤務）、佐藤さら先生（宮城県勤務）がそれぞれ登壇し、「口腔内の過去・現在・未来を観る」「ステップアップ！ハイジーンワーク」の2部制で講演が行われました。特に、歯科衛生士セッションは、立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。

4年振りとなる実開催となり、やはり実開催は良いものだ、改めて感じさせてくれる大会にすることができました。来年も「東北らしさ」が感じられる温かみのある大会となるよう、実行委員長である渡辺理平先生（青森県開業）の下、準備に勤しんでいきたいと思っております。

東北支部長 菅崎 紳



支部長：菅崎 紳



実行委員長：永田一樹



支部理事：渡辺理平



佐々木 順也 先生



両川 鈴奈 先生



渡辺 崇 先生



佐々木 宏志郎 先生



山田 康友 先生



若松 澄玲 先生



宮城大学学長：佐々木啓一 先生



山泉 弥智世 先生

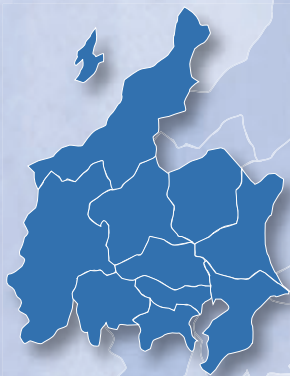
千葉 加南子 先生

後藤 由香 先生

片倉 玲奈 先生

赤塚 裕美 先生

佐藤 さら 先生



関東甲信越支部

テーマ：デジタルの時代だからこそ
歯科医療の本質を探る！

開催日：2023/11/26

会場：コングレスクエア日本橋



支部長：吉田拓志

関東甲信越支部では例年、ホールでの講演に加え、ハンズオンやテーブルクリニックを企画していましたが、4年ぶりの実開催を行うこともあり、今回は以前の規模の約半分、目標人数も200名としてホールでの講演のみで行うこととしました。

大会のテーマとしては、4年前に企画のみで開催できなかったテーマを採用し、3月中にはプログラムも決定、運営についてのディスカッションを以降の会議で行うこととしました。例年であれば、毎月集まって会議をしていたのを、半分以上webミーティングにて準備を行いました。

実行委員のほとんどが、他の学会や勉強会の主軸として活躍していることもあり、webミーティングの活用が増えたことで集まりやすくなり、コロナ禍での数少ない良い経験を活かした運用となりました。

大会当日は、前日の理事会での再確認も功を奏し、理事、お手伝いいただいた事務局の方々の協力により素晴らしい運営ができました。反省点として、演者の先生にネームカードもしくはお花をつけていただいた方が良かったとの意見がありました。

今回の大会を通じて感じたことは、今回のテーマの通り、現在デジタルの活用がトピックスになることが多いのですが、各講演者は皆アナログの臨床でもスペシャリストでもあるということ、デジタル時代でも歯科医療の本質は変わらないと再認識させられました。結果、220名を超える参加者と14社の企業の協賛を賜り、盛況のうちに開催することができました。

来年度、大会長は学会規定により支部長推薦、支部理事会の議を経て、神山剛史先生に決定。実行委員長は学会規定により神山次期大会長の推薦の下、畑中秀隆先生に決定となりました。まだ来年度へ向けての会議は未開催ですが、今年の参加者の状況を踏まえ、もう少し規模を大きくして開催したいと考えています。

参加者の皆様には改めてお礼を申し上げます。

関東甲信越支部長 吉田 拓志



丹野 努 先生



清水太郎 先生



越智信行 先生



関 豊成 先生



高井基普 先生



穴沢有沙 先生



長谷川春菜 先生



関根 聡 先生



田中文博 先生



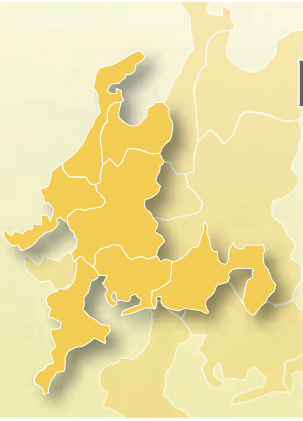
植松厚夫 先生



岩城謙二 先生

相澤正之 先生

神山剛史 先生



中部支部

テーマ：長期的予後を見据えた補綴と歯周組織の
関係（歯周解剖の理解を深める）

開催日：2023/12/3

会場：栄ガスビル

コロナ禍前の数年間中部支部では、補綴治療セッションと歯周治療セッション、すなわち歯科技工士と歯科衛生士がともに各専門分野を深く学べるようにと歯科医師を含め各自が選択できるように2講演を企画して、隣接する2ホールに分かれての同時進行で開催されていました。たいへん好評をいただいていたので、今回も継続して同形式での構成といたしました。

久しぶりの現地開催ということもあり、この3年間でリモート慣れした会員はもちろんのこと、非会員も含めてより多くの歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、歯科助手等の皆さんがいかにか積極的に会場に足を運んでもらえるかを念頭に企画を立てるよう心掛けました。そのためには臨床に即役立ち興味をそそられるような話題を提供することが必須となります。そこで今大会の約9ヶ月前に中部支部理事会リモート会議を開催し、テーマや講師選定に関しての協議を行い、そこで挙がったキーワードの一つが「Longevity」でした。それをテーマの基盤として、講師を日額会員内にこだわらず、全国で幅広く活躍されている先生として、歯周治療と補綴、特にインプラント補綴に関しては牧草一人先生、総義歯補綴に関しては相澤正之先生と岩城謙二先生が挙がり、申し分のない講師選定になったと考えています。

本学会術大会で開催される若手登竜門の発表者選考を兼ねた会員発表4題を午前の部に、そして午後は講演と2部構成の大会プログラムとしました。

当日は115名の参加者のもと、田ヶ原支部長、貞光理事長のあいさつを皮切りに橋本雅人先生の司会進行で、時間的にも大きなトラブルなく進められました。4名の会員発表では、牧草先生と相澤先生に午前中から同席していただき、各々の発表後に的確なコメントを頂戴しましたので発表者にとってはたいへん記念になったのではないかと思います。午後は、各講師が時間に配慮していただきながらのたいへんわかりやすいご講演で、参加者にとっては新たな知識の獲得や再認識ができた有意義な大会になったのではないのでしょうか。

当初は、講演が始まる午後から先生方が参加されるのではないかと予想していましたが、午前中から多くの席を埋める結果となったことはたいへん嬉しい誤算でした。またそれに相応しい素晴らしい会員発表内容だったと思います。久しぶりの現地の活気、ライブの醍醐味というものが実感できた1日となりました。

来年以降の大会でも、会員が本当に参加して良かった、さらには医院単位で参加したいと思ってくださるような企画を考えていきたいですし、非会員の先生方にも顎咬合学にもっと興味を持っていただき、そして入会してもらえようなきっかけになる大会にできればと思っています。

中部支部 副支部長 川上 清志



支部長：田ヶ原昭弘



副支部長：川上清志



牧草一人先生



石坂圭識先生



清水紘平先生



喜田晃一先生



名古年成先生



岩城謙二先生

相澤正之先生

近畿・中国・四国支部

テーマ：顎咬合学 × デジタル
歯科治療のフューチャリティ

開催日：2023/11/12

会場：AP 大阪駅前



支部長：宇根岡大典

今回の支部学術大会は2019年を最後に4年ぶりの実開催となり、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより世間の社会活動が急速に動き出し、同時に学会活動もwebによる学会開催から対面による実開催となり様々な活動がようやく行えるようになったものの、コロナ禍において働き方をはじめ社会活動そのものが大きく変化したことによる影響がどの程度対面による開催に影響するかが大きな不安要素でした。

プログラムの企画としてコロナ禍の4年間で歯科治療においてもデジタル技術が一層加速的に身近なものとなり、様々な可能性が考えられる一方、顎咬合学という考え方を改めて強調していきたいという考えから『顎咬合学 × デジタル歯科治療のフューチャリティ』を大会のテーマとして掲げました。またデンタルショーをイメージし、可能な限り協賛企業の展示を増やすことにより、久々の対面による学術大会がより活気あるものであったと参加者に対して印象づけられるよう考えました。会員数の増加のために、できるだけ非会員の人にも参加していただけるよう、非会員歯科医師の参加登録費用見直しも行いました。

より幅広い職種の方々に参加登録していただきたいとの考えから、開催準備として大会長を中心に歯科医師、歯科技工士のコラボレーションのセッション、また別会場にて歯科衛生士のセッションを設けました。しかし、歯科技工士演者との日程調整が合わず、歯科医師と歯科衛生士セッションのみの開催となったため、歯科技工士の参加登録を伸ばすことができなかったことが反省点として挙げられます。

今年度より支部長の引き継ぎや新体制となったこと、また4年ぶりの対面による支部学術大会ということで、段取りやノウハウ等を忘れていることが多く、過去の資料をもとに手探り状態での開催となったため、参加者への会場案内、協賛企業への対応、会員発表の活発な質疑応答のための準備等、来年度以降の支部大会時の課題点として挙げられます。

課題点も多々ありますが、当日参加できなかった理事も含めて事前の協賛企業および参加者の積極的な募集の甲斐もあり、目標以上の協賛企業を誘致することができ、また参加人数も2019年に比較しても同水準の人数を集めることができました。内容においても若手の会員発表6演題全てが高いレベルで、若手登竜門選考も兼ねての会員発表でしたが、候補者を1名に絞るのに良い意味合いで苦慮する状況でした。その他歯科衛生士セッションおよび歯科医師セッション共に参加者からも好評を得ることができました。

前述したように来年度の支部学術大会は、歯科技工士の方々にも積極的に参加していただけるプログラムを企画していくと同時に、今年度良かった歯科衛生士セッションもさらに充実できればと考えております。

近畿・中国・四国支部長 宇根岡 大典



丸尾 操 先生



谷尾和正 先生

貞光謙一郎 先生



林 大智 先生



中藤信也 先生



長塚弘亮 先生



芳野 博 先生



西條 翔 先生



溝淵隆宏 先生

九州・沖縄支部

テーマ：こだわりの歯科臨床を語ろう

開催日：2023/12/10

会場：福岡県歯科医師会館

九州・沖縄支部学術大会は他支部同様 2019 年を最後に 2020 年は新型コロナウイルス感染症により中止となりました。2021 年は 6 支部合同での web 開催、2022 年は第 40 回学術大会との合同開催を行い新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行したことで、その他学会や人の動きも急速に元に戻ってきました。このような中で今回は実開催のみの形式で行うことを決定しました。コロナ禍、web 中心の講演会になれていたことで、実開催のみで行う学術大会にどれだけの人が来場してくれるかを心配しながらの開催でしたが、蓋を開けてみると目標の 200 人に達することが出来ました。

九州・沖縄支部では支部学術大会準備委員会を約一年前から立ち上げ、準備にあたりました。九州内の各スタディーグループから中堅・若手を集めたメンバーで構成することにより、様々な意見とノウハウを集結して大会の成功につなげることが出来ました。

プログラム構成に関しては 2020 年の支部学術大会で予定されていたお二人、東京人形町でご開業の長谷川嘉昭先生、歯科衛生士の川崎律子先生、今年から新たな取り組みとして歯科技工士部門を設け、渡邊裕士先生（株式会社 愛歯）、村田彰弘先生（株式会社 LAZARUS）にご講演をいただきました。大会のテーマである『こだわりの歯科臨床を語ろう』のもと、先生方の考え方、取り組み、臨床を紹介していただきました。

午後からの歯科医師部門では、若手支部選抜選考会を兼ねて、九州沖縄から 6 人の若手歯科医師を選抜し、それぞれこだわりを持った咬合再構成症例をプレゼンテーションしていただきました。長谷川先生からも歯科医師全員に臨床の励みになる素晴らしいコメントをいただき、これからの成長、研鑽に役立っていくものと感じました。

コロナ禍や web システムの発展により、若手歯科医師の学びの場が学会やスタディーグループから離れていっているように思われる今日、歯科界の発展、若手歯科医師の成長の隣に日本顎咬合学会が臨床を中心とした研鑽の場として、いつも門を開いていることを、皆さんにお伝えすることが出来るよう強い想いで、また来年に向けて頑張らせていただきます。

九州・沖縄支部長 渡邊 祐康



支部長：渡邊祐康



渡邊裕士先生



村田彰弘先生



川崎律子先生



長谷川嘉昭先生



小林裕介先生



秋元喜文先生



丸山俊正先生



宮本英欧先生



山尾康暢先生



吉永恵理佳先生

Informations

2023年度「咬み合わせベーシックセミナー」開催中！

各会場 定員 10名・参加単位数 10単位

ご自身の支部会場で日程のご都合がつかない方は他の会場でも受講いただけます。

■ 北海道支部（札幌）	終了しました
■ 東北支部（仙台）	2024年3月20日（祝）
■ 関東甲信越支部（東京）	2024年2月12日（祝）
■ 中部支部（名古屋）	2024年3月3日（日）
■ 近畿・四国・中国支部（大阪）	終了しました
■ 九州・沖縄支部（福岡）	会場の確保が難しく2023年度開催は見合わせ



ホームページはQRコードからもアクセスが可能です。

詳しくはホームページ「咬み合わせベーシックセミナーの開催・参加登録受付のお知らせ」をご覧ください。

URL：<https://ago.ac/notice/the-bite-altogether-basic-seminar-will-be-resumed/>

日本顎咬合学会 北陸地区認定教育研修会

顎咬合学の面白さを知ろう ～補綴治療の可能性と役割～

講師：吉木 邦男 先生（吉木デンタルクリニック）

日時：2024年2月18日（日）9：00～12：00

場所：ホテル金沢4F エメラルドルーム（石川県金沢市堀川新町1-1）

事前参加申込は下記のURLより参加申込シートをご参照いただき、

北陸日顎事務局へFAXまたはEmailでお申し込みください。

<https://ago.ac/members-and-medical-professionals/branch/chubu-branch/>

申込期限：2月10日（土）

※当日の参加登録も可能です。

※認定資格保有者は**10単位**が付与されます。

詳細はホームページの中部支部のイベント欄をご確認ください。

皆さまのご参加をお待ちしています。



中部支部ページはQRコードからアクセスが可能です。

WEB 会員システムに関する大切なお知らせ

2022年より新しい会員システムを導入しました。今後は、住所・連絡先などの登録情報の確認・修正、認定資格・単位取得状況確認だけでなく、**学術大会等の研修会の申込をweb上のマイページにて行っていただけます。**大会の参加登録にはマイページへのログインが必要となります。必ず一度ログインし、情報の更新にご協力いただけますようよろしくお願いいたします。



QRコードから会員ログインページにアクセスが可能です。



表紙絵 ミウラナオコ

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会 News Letter 92

発行日：2024年1月31日

発行者：貞光謙一郎

特定非営利活動法人 日本顎咬合学会

〒102-0093 東京都千代田区平河町1-8-2 山京半蔵門パレス201

TEL：03-6683-2069 FAX：03-6691-0261 E-mail：nichigaku@ago.ac